



桜だより



2022年7月11日発行



七夕に願いを込めて

大きな行事であった修学旅行も終わり、1学期も残すところ1週間となりました。今週から体験入学も始まり、5名の子どもたちが一緒に学んでいます。日本式の教育

の体験を楽しんでもらえればと願っています。また、日学の子どもたちにとっても、現地の学校で学ぶ子どもたちから良い刺激をもらってほしいと思います。

体験入学初日の本日、最初に行ったのは避難訓練ですが、ここリオでは犯罪件数が多いことから、銃声と暴漢の訓練（他にも火災・土砂崩れ）を繰り返し行っています。日本の学校では、地震を中心に避難訓練を行っていますが、オーストラリアのシドニーの学校では、ブッシュファイヤー（森林火災）からの避難訓練を行います。それぞれの地域で主に行う訓練は違いますが、どれも大切な命を守るための訓練です。

数年前、オーストラリアで大規模なブッシュファイヤーが発生しました。多くの逃げ遅れた動物たちの命が失われてしまいましたが、その中でも人々は、やけどを負った動物を救い出し懸命にその命を守ろうとしました。動物の命も大切な命なのです。ひとたび災害が起きると、被災した人たちを救うために多くの人が救助に当たります。けがをした人がいれば、懸命に治療にあたります。なぜなのか？ それはこの世の中で「命」ほど大切なものはない、ということのみな知っているからです。



人はみな、幸せに暮らしたいと願っています。贅沢な暮らしとかではなく、ただ家族や友人と一緒に穏やかに暮らしたいだけなのです。平凡な事かもしれませんが、それは世界中の人たちの願いだと思います。人は嬉しければ喜び、悔しければ怒ります。悲しければ泣くし、おかしければ笑います。言葉や文化、国籍は違っても、人間としてみな同じです。しかし世界の中には、そのささやかな幸せさえも脅かされている人たちが、たくさんいるのも事実です。

4年生が国語で「ランドセルは海をこえて」を勉強していました。日本で使われなくなったランドセルを、アフガニスタンに送る活動を紹介したものです。使い古されたランドセルでも、アフガニスタンの子どもたちにとっては、学ぶための大きな希望になっているそうです。3年生以上は今、総合的な学習の時間でSDGsの学習に取り組んでいます。“我々は、貧困を終わらせることに成功する最初の世代になり得る。同様に、地球を救う機会を持つ最後の世代になるかもしれない。”（我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ）とあるように、世界は今、大変重大な局面を迎えているといえます。豊かで美しく平和な地球を、未来の子どもたちに残せるか否か、正念場を迎えているといってもいいのではないでしょうか。無駄な争いをやめて、世界中の知恵や勇気を結集して地球的課題の解決に向かうことを願うのみです。

先週、日学では七夕飾りを作りました。子どもたちが書いた短冊の中には「みんなが幸せになってほしい」というものや「戦争がはやく終わってほしい」という願いもありました。未来を生きる子どもたちに、どんな世界を受け渡すことができるのか、私も子どもたちと共に真剣に考えていきたいと思いました。

7月の生活目標

まいにち げんき 毎日を元気にすごそう



修学旅行

2022

感染防止対策をとりながら、貸切バスでテリゾボリス&ノバ・フリブルゴ方面に、6日（水）から2泊3日で修学旅行に行ってきました。天候に恵まれ子、どもたちは最高の思い出を心に刻むことができました。一部を写真で紹介します。



初日のセラドスアルガンス国立公園。急な山道のため、初めは元気だった子どもたちも次第に口数が減り、出るのはため息ばかり…。それでも見晴台から見えた“神の指”に感動し、疲れは一気に解消しました。ネゴ彫刻庭園では彫刻の作者にもお会いでき、貴重なお話を伺うことができました。



2日目は、チョコレート&チーズ工場を見学しました。チーズ工場に働く人から仕事のことについてのお話を聞くことができました。陶芸教室ではろくろ体験をしました。作った作品は3か月に焼き上がる予定です。ケーブルカーはスリル満点でした。そして、山の頂上から見る景色は圧巻でした。最終日は、犬(?)に会いに行きました。洞窟や巨石をくぐり抜け頂上に到着。どうしてあんな形になったのか、自然の芸術を堪能しました。

